



2025年1月号(No.21)  
公益社団法人 日本山岳会  
The Japanese Alpine Club  
東京都千代田区四番町5-4  
<https://www.jac1.or.jp>

3カ月に一度発行する「山」ユース版では、ユース世代の会員の活躍をご紹介します。ユースクラブに関心のある方は、ユースクラブ委員会のメールアドレスにご連絡ください。

✉ [youthclub-kanri@jacmember.com](mailto:youthclub-kanri@jacmember.com)

【編集担当】  
松原尚之  
滝沢守生  
谷山宏典  
田島圭悟  
新井 梓

## 各支部からユース49名が参加 — 第3回ユース交流会 in 広島

2022年に広島、2023年に岐阜で開催されたユース交流会。3年目の2024年は、再び広島の素晴らしい岩場をベースに実施。三倉岳(大竹市)や天応(呉市)など、壮大な景色を望める山域・岩場に、全国の支部から49名のユース世代が集まってクライミングや登山を楽しんだ。

11月2日～4日、広島にて、ユース交流会が今年も盛大に開催された。参加したのは、ユースクラブ、信濃支部、東京多摩支部、東海支部、関西支部、京都滋賀支部、東九州支部、そして広島支部から総勢49名。京都滋賀支部からは初参加だ。

交流会初日の11月2日は季節外れの台風通過で交通機関が大いに乱れた。それでも参加者たちは夕方～夜までに三倉岳キャンプ場へと無事集結。初日の夜は広島支部メンバーたちがバーベキューやご当地ラーメンなどを用意してくれて、楽しく賑やかな夜を過ごした。

2日目は青空が戻り、三倉岳へ。マルチピッチを登りたいメンバーは中ノ岳岩稜に、それ以外はショートルートのクライミング。クライミングではなく、登山道でないルートから三倉岳を周回する登山を行ったパーティーもあった。夜は再び楽しい懇親。この夜は、東海支部の20代前半の若者3名による、2年後に計画している海外登山のプレゼンなども実施された。

3日目は天応烏帽子岩山。瀬戸内海の絶景を眺めながら登れるこの最高の岩場を、私たちだけの貸し切りで使うことができ、無事3日間のイベントを終了することができた。



天応の岩場・銀座尾根で、瀬戸内海の大島美をバックに！

ユース交流会は開催場所の選定にいつも悩まされるが、「また広島でやっていいですよ」という広島支部・大田さんの言葉に甘え、一昨年以来の広島での開催となった。万全の受け入れ体制で迎えてくれた広島支部の皆さんにはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。日本山岳会には30を超える支部があり、まだ私がご一緒したことのない支部も少なくない。開催地や内容の関係で参加したくてもできないよ、という支部の方々もいらっしゃると思うけれど、より多くの支部の方々にご参加いただき、交流の輪を広げられるように、今後も場所、内容ともに頭を悩ませながら、このユース交流会を続けていきたいと考えている。

(ユースクラブ委員長 松原尚之)



↑  
ユース交流会の様子を短い動画で紹介

### 第3回ユース交流会 参加者 (49名)

【講師】松原尚之、谷剛士、杉原一樹 【本部ユースクラブ】田島圭悟、畠山耕造、涌嶋 満、直 広明、新井 梓、廣岡正敏、杉本美香、稲吉久美子、小岩佐千子、後藤健治、梶谷恵子 【信濃】高橋湧汰 【東京多摩】山根伸洋、佐々木朗子 【東海】高橋玲司、河野克来、大西伸幸、中畑岳登、竹内 将、林 須美子、三ツ井研太 【関西】立野里織、江村俊也、竹中雅幸、吉村恵利 【京都滋賀】松下征悟 【東九州】田所歳朗、寺道和代 【広島】大田由孝、井上紀江、勝田直樹、田中明良、大野雅樹、奥迫拓也、安松 崇、柳坪宏美、岩西昭典、今中淳太、高橋 大、山本郷子、原 駿介、石橋秀幸、シマブクロマイキ、中尾新士、半川慎一郎、田中裕紀子(支部友)

# 快拳！ プンギ遠征隊、井之上巧磨隊長インタビュー

2024年10月12日午後0時19分、日本山岳会学生部・プンギ遠征隊による初登頂成功は、世間を大きく賑わせた。標高6,524m、ネパールの中央部にあたるアンナプルナ山域に位置するこの未踏峰に、5名パーティー全員が無事登頂。今回隊長を務めた青山学院大学山岳部の井之上巧磨さんにインタビューした。

## Q 計画はいつ頃から？ メンバーはどうやって？

——2022年の冬くらいです。ヒマラヤに行きたいと考えていましたが、青学の山岳部では遠征を出すのが難しそうでした。それでよく一緒に登っていた東大の尾高に話したら賛同してくれて。その後学生部で呼びかけたら、立教の横道が手を挙げ、横道が同じ立教の中澤を連れてきました。また下の代も入れたいと思い探していたら、中央の芦沢が行きたいと言ってくれました。下の代を入れたいと思ったのは、後輩たちに経験が継承されやすいと考えたからです。

## Q プンギを選んだ理由は？

——エベレスト街道のように情報が溢れている山よりも、未知の部分が多い未踏峰にこだわりました。

ただ背伸びしすぎても、自分たちの実力だと何もできずに終わる可能性もあるので、ヒマラヤキャンプ隊が行っていて写真や情報があるプンギがよいと考えました。

## Q 大学を1年間休学して、親御さんの反応は？

——僕の親に関しては、特に何も言いませんでした。休学の費用が10万円かかりましたが自分で負担しました。夏は富士山バイトでほとんど家にいなかったし、あまり金銭的な負担はかけなかったと思います。今回の遠征で親に出してもらったのはパスポート代だけでした。他の隊員と話しても親から反対されたとかいう話は聞かなかったです。ただ横道だけは親が休学などんでもないということで、彼は遠征前に国家公務員の試験に受かり、外務省への就職を決めてからプンギに行きました。



プンギ南峰西尾根を歩く井之上さん

## Q 休学中はどんなアルバイトを？

——夏は尾高と一緒に富士山でお客さんを案内する仕事をし、夏以外は横道と一緒に渋谷のカフェでバイト。横道はカフェ以外に槍ヶ岳の殺生ヒュッテでも働いていました。中沢も富士山頂の山小屋、芦沢は都内のブックオフでバイトしていました。

## Q 遠征に行くまでに大変だったことは？

——未踏峰に行きたい人は多いけれど、実際に行っている人は少ないし、どうやって計画したらよいかははじめわかりませんでした。エージェントを決めるのも3社を比較して英語で交渉したり。まわりを巻き込んでやる気にさせるのが大変でしたが、幸い日本山岳会の方々が早々と協力的になってくれたのでありがたかったです。

## Q 遠征までのトレーニング（山行）について

——無雪期は錫杖や屏風岩の登攀に行き、積雪期は剣岳早月尾根（2月）や八ヶ岳で定着合宿などを実施しました。かなりひんぱんに山と一緒に出かけていたので、それがチームワーク醸成につながったと思います。実際ネパールに行ってから、喧嘩をするようなことはありませんでした。

**Q 現地エージェントや現地スタッフの印象は？**

—— 素晴らしかったです。スタッフはみな日本語が堪能で、コックさんはおいしい日本食を毎日食べさせてくれました。カトマンズのどの日本料理店よりも、私たちのコックが作ってくれる日本食の方がおいしかったです。ネパールで一番快適な場所はどこかと聞かれたら、ブンギのBCと答えます。

**Q 未知の稜線はどんな感じでしたか？**

—— 想像していた以上に大変でした。頂上稜線に出て、ブンギサウス手前の標高6,200m地点で予期せぬクレバス帯が現れ、クレバス帯の手前をACとせざるをえませんでした。翌日のアタックではクレバス帯を越え、ブンギサウスと主峰のコルへと上がりましたが、その先も細いリッジが続き、懸垂下降を必要とする箇所もあって、結局頂上には届きませんでした。この1回目のアタックは15時間行動となり、翌日はストックに体をあずけるようにしてBCへと帰り着きました。

**Q 頂上ではどんな気持ちでしたか？**

—— 大学山岳部の4年間の経験が実った気がしてとてもうれしかったです。ただ、下山ルートも簡単ではなく、不安でもありました。そのため頂上には結局10分ほどしか滞在せずに下山を開始しました。

**Q 登山終了後さまざまなメディアに取り上げられましたが、「山岳部の活動をアピールする」という**

**2つめの目標について手応えはありましたか？**

—— 山ってクローズドな世界、やっている人しか知らない世界だと思うので、それがニュースに出ることで、山にまったく興味のない人たちにまで見てもらえたのは意味があったのかなと思います。

**Q 遠征に興味がある後輩たちにアドバイスを。**

—— ヒマラヤは日本の山とはまた違った魅力があって、それを学生時代に体験するのは大きいと思います。また行く前はトレッキングには特に興味がなかったのですが、行ってみたらBCまでのトレッキングもとても楽しく、よい経験になりました。未踏峰や8,000m峰とかにこだわらなくても、ネパールに行くだけでも大きな意味があると思います。

**Q これからどんな登山、どんな仕事をしていきたいですか？**

—— 今回とてもよい経験ができたので、まずはそれを後輩たちにしっかり伝えていきたいです。また、日本での登山の経験がヒマラヤでも十分通用するとわかったので、しばらくは日本の山で経験を積み、いつかまた海外の山に行きたいと思います。

就職活動については正直まだ何も考えていないのですが、今回の遠征を通じて、1つの大きなプロジェクトを作るのって面白いなって思えたので、仕事でもそんなことができればよいな、なんて考えたりしています。

(聞き手：松原尚之)



《遠征隊メンバー、敬称略》  
井之上巧磨（隊長）（青山学院大学体育会山岳部）、尾高涼哉（東京大学運動会スキー山岳部）、横道文哉（立教大学体育会山岳部）、中沢将大（立教大学体育会山岳部）、芦沢太陽（中央大学学友会体育連盟山岳部）

現地スタッフと5人のパーティーメンバー（前列左から芦沢さん、尾高さん、横道さん、井之上さん、中沢さん）

# YOUTH CLUB TOPICS

## カナダの山を知る 「カナダ★ナイト」実施

2024年11/20(水)、21(木)の2夜にわたり「カナダ★ナイト」と題する、カナダの山と岩を紹介する講演会を開催した。講演はリアル会場とYouTubeでのオンライン配信で実施。メインスピーカーは、カナダ・キャンモアに居を構え、日本人初にして唯一のカナダ山岳ガイド協会認定マウンテンガイドとして活躍する谷剛士(たけし)さん。

カナダのクライミング事情や岩場情報、カナディアン・ロッキーや岩稜登山、ハイキング、アイスクライミングまでをご紹介いただいた。

ユースクラブでは一昨年から夏のカナダでクライミング合宿を行っており、3年目の今年はクライミングのほか、当会設立120周年事業の一環としてアルバータ山登山を予定している。会場からは多くの質問が飛び、盛会のうちに幕を閉じた。



カナダの山の楽しみや難易度などの情報を端的に解説してくださった谷剛士さん(YouTube配信の様子)「カナダ★ナイト」はYouTubeで視聴可能→



## 2024年度下期 雪山講習シリーズ開始!

2024年度下期の講習として、冬の八ヶ岳をベースに、雪山登山やテント泊、山小屋のアイスツリーでアイスクライミングの基礎を学ぶ全4回の講習シリーズを実施中。

雪山初級者は硫黄岳を、中級以上の経験者は大

同心稜を目標とし、毎月1回の山行を重ねていく。雪山装備を担ぐ体力に加え、アイゼン歩行やピッケルの扱い、雪上テント技術、雪山特有のリスクを避ける知識と経験を身につけるべく、トレーニング山行を実施中だ。

<実施内容>

- ① 2024/12/21 ~ 22 硫黄岳(テント泊)
- ② 2025/1/25 ~ 26 アイスクライミング講習、金峰山登山(岩根山荘泊)
- ③ 2/22 ~ 23 横岳・杣添尾根(テント泊)
- ④ 3/29 ~ 30 大同心稜(テント泊)

初回の硫黄岳では、アイゼン・ピッケルワークの基本を講習して登頂した。



第1回硫黄岳山行の様子。天候は悪かったが、その分学びも多かった

## 2025年度上期の予定

### ●岳沢雪上訓練(5/10~11)

例年5月に実施している雪上訓練を今年も実施予定。北アルプス・岳沢小屋付近に上がり、ピッケルワークやアイゼンワーク、滑落停止や雪上ビレイの方法などを学ぶ。夜は山岳研究所に宿泊して懇親する。来たる冬山山行を見据えた講習だ。

### ●目指せ!北鎌尾根(4月~9月)

2024年度に実施したシリーズ山行で、4月から月1回の準備山行を重ねつつ、9月に北鎌尾根から槍ヶ岳登頂を目指す。準備山行では、ロープワーク講習や沢登り、バリエーションルート登山を実施。自立した登山者としての力を養成する。